

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大田区立こども発達センターわかばの家 親子通所		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日 ～ 令和7年 1月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28 (回答者数)	25
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 10日 ～ 令和7年 1月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人の「受容的交流」の理念のもと、表面的な行動だけでなく、子どもの内面の動きを理解しながら関わりを進めていく姿勢を重視している。人との関係を通して子どもの自発性や主体性を育てることを大事に考え、一人ひとりの子どもの発達の状態に応じた支援に力を入れている。	法人として支援の中心の考え方である「受容的交流」を核に職員支援の考え方がそろっており、効果的な療育が行われている。また、職員のスーパービジョンも受容的交流の考え方のもと統一されており、職員のキャリア形成とも一体となって運営がされている。	日々の支援の中で、子どもの気持ちや視点に立って考えていくことを大切にいく。子どもの表面的な行動だけでなく、なぜその行動を取らざるを得なかったのかという内面を理解していく支援ができるように、振り返りを行い、保護者と共有していく。
2	親子参加による療育を行っているため、状況を共にする中で、保護者と一緒に子どもとの関わりや環境の設定などを具体的に考え、共有できる。保護者が子どもを理解し、保護者自身の気付きにつながっていると感想をいただくことが多い。	グループの療育者に加え、心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、音楽療法セラピスト等、それぞれの専門的な視点から子どもの発達上の課題や特徴を把握し、支援している。また専門職による保護者向け勉強会を実施し、保護者の子どもへの理解につなげている。	通所している保護者だけでなく、家族が子どもの状態や支援の状況について、理解していくための機会を積極的に設けていく。（日曜参観、保護者勉強会の実施等）日曜参観後は父親の参加も増えている。
3	切れ目のない支援を実行できるように、当所の相談支援事業所との連携や、入所前の担当からの引継ぎを丁寧に行っている。また、行政をはじめ関係機関との連携や、地域への移行支援を行い、子どもと家族が地域で安心して過ごせるように支援している。	保育園との連携では、電話相談、来所相談を実施し、当所の療育環境や、療育者の関わりを実際に見学していただき、子どもにとっての過ごしやすい環境や関わりを保護者、園の方と一緒に共有をしている。	地域で安心して暮らしていくために、住んでいる地域にどんな支援があるのかを福祉勉強会を開催し保護者が知る機会を設定している。区が発行している「子育てハンドブック」「福祉のあらまし」等を使って児童館や一時保育等、子育てに役立つ情報や福祉の情報を伝えることで、保護者が地域の中で安心して暮らせるように支えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの見直し、訓練、研修などをより実効性のあるものにブラッシュアップしていく必要を感じる。今後も、訓練や研修を行い各委員会が中心となって検討を続けてく。	見直しや、整備を行ってあるが、現場で活用しきれていないことがある。	全職員と保護者にむけた周知方法を工夫する。
2	児童発達支援のサービスを利用するにあたって、区民の生活状況を踏まえ、療育の併用について検討する必要がある。	保護者のレスパイトや、生活状況など個々の家庭事情で必要に応じて検討していく。	利用者アンケートや個別面談によって、保護者の意見やニーズを把握し、サービスの質の向上につなげる。
3			